

アイヌタイムズ 第68号 日本語版

★ 「ゴールデンカムイ」の話

2017年12月3日に北海道大学で「危機的な状況にある言語・方言サミット」が開かれました。

基調講演は、中川裕千葉大教授が監修した人気漫画「ゴールデンカムイ」を通してアイヌ語を活性化する可能性についてのお話です。

社会言語学の中では、言語やその民族のイメージを良くすると言語の復興につながると言われています。多くの日本人はアイヌ語を知らないし、関心もありません。アイヌ民族が努力するだけでは言語の復興は難しく、周りの社会環境が変わることが必要です。そのためには、アイヌ民族以外の人たちに関心を持たせるために、プラスのイメージを強くする必要があります。

アイヌ語を広めるために(教授が)考えていた結果、突然「ゴールデンカムイ」という漫画が登場しました。[原文:その方法の一つに広報がありますが、アイヌについては、偶然に登場したのが、「ゴールデンカムイ」でした。]この作品は、2014年から週刊ヤングジャンプ(集英社・出版)に連載されています。

日露戦争直後の北海道が舞台で、帰還兵・杉本佐一が主人公で、ヒロインがアイヌの少女「アシリパ asirpa」です。

(教授が)原画を見たときに、道具や衣装の一つ一つが、これまでアイヌを取り上げた漫画にない正確さで描かれており、とても良いと思いました。

雑誌に載せた後に時代考証した衣装もあります。

たとえば、アシリパが頭に巻いている「マタンプシ matanpus」ですが、今は女性も着けますが、かつては男性しか着けてませんでした。「マタンプシ matanpus」は、いつから女性も着けるようになったのか、調べて見ると、明治後期であることがわかりました。つまり、物語の中では当時の最先端のファッションになります。

また、(教授は)アイヌ語表記にもこだわりました。ヒロイン「アシリパ asirpa」の「r」を小さい「リ」と正確に書いてます。アイヌ語では、日本語のカタカナではない、新しい小さなカタカナを使います。彼女の名前が出るたびに、この小さい「リ」が意識され、アイヌ語が日本語と違うことを一目でわかるようにすることができました。

「アシリパ asirpa」が生まれた小樽近郊はアイヌ語の資料がほとんどない場所です。

(教授は)彼女が話す小樽方言がどういったものであるかを調べました。衣装や道具は正確なのに、言葉だけいいかげんなものにはできません。将来、マンガでアイヌ語を覚える人が出てくることも考えました。

北海道大学大学院の佐藤知己教授は、江戸時代の文献によってアイヌ語を研究しています。(中川教授は)この研究とアイヌ民族の墓標から小樽方言のことを考えました。墓標は地域によって異なり、小樽は八雲に近いとされています。墓標が近いということは、縁

戚関係にあり、方言どおしの関係も深いかもしれません。

しかし、八雲方言は資料が乏しく、これで様々なアイヌ語作文を作ることは難しいものとなっています。また、佐藤教授の論文から、小樽近郊の方言と胆振・幌別方言は関連が深い可能性があることがわかりました。そこで、地域的に八雲に近く、資料も豊富にある幌別方言をベースにして、アシリパの言葉としています。

また、アシリパ一行は、物語の途中から北海道内の移動をしています。一行が小樽を離れ、札幌から樺戸というところで、本紙連載では、樺戸の人にうっかり幌別方言のセリフを入れました。

「Ku=hokuhu eci=rayke kusu eci=montasa=
=as na! (夫を殺された復習だ!)」

(これは違う言葉です)。樺戸の人は、石狩方言を話します。それで単行本(コミックス)では、石狩方言に直しています。

「Ku=hokuhu es=rayke kusu es=montasa=
=as na! (同上)」

微妙な違いですが、知っている人にはとても目立つ部分です。こういうことがあったため、釧路へ行った時には、釧路の人に釧路方言のセリフを入れるように注意しました。このように細部にこだわるのは、マンガを通して初めてアイヌに触れた大勢の人の中で、アイヌ語に興味を持ってくれた人に間違っただけ情報を刷り込まないようにするためです。

ゴールデンカムイはテレビアニメ化も決まりました。2018年4月からTOKYO MX(東京)、BS11(全国)で放映します。北海道では、札幌テレビで放映します。FODでインターネット配信もします。

動作や発音もアニメであれば比較的簡単に表現できます。たとえば「ヒンナ(ありがとう)」という時は、手のひらを上に向け上下させますが、これもアニメに取り入れることができるので、そうするようにお願いしました。ヤングジャンプは青年男性向きですが、テレビアニメになれば、目にする層も広がるでしょう。

(中川教授は)関係者と連携し、様々な戦略を考えることがアイヌ語復興の一助になることを期待しています(と話しました)。

[横山 裕之] 沙流・千歳